

# 序

今、本書を手にとったあなたは

臨床に出て間もないセラピストだろうか？

これから地域に出ることをめざしているセラピストだろうか？

病院や施設での臨床経験はあるものの、はじめて地域で活動することになり不安を感じているセラピストだろうか？

活動の幅を広げたい地域で活動するセラピストだろうか？

セラピストをめざす学生だろうか？

本書はそのすべての方々の力になるものと確信している。

地域包括ケアの進展に代表されるように、近年セラピストが地域で活躍することを期待する声がどんどん大きくなっている。共生社会やインクルーシブな社会を実現するためにも、セラピストが地域での活動の場を広げ、地域への関与を深めていくことは不可欠である。そういった意味からも、セラピストを求める地域の声の高まりは理解できるところだろう。

一方で、地域がセラピストに求める役割は従来のリハサービスの提供にとどまるものではなく、健康成人への予防的なかわりや地域づくりへの貢献など多様である。そのため、この新たな地域からの要求に戸惑いや不安を感じるセラピストがいることは自然なことだと思う。

本書では、地域がセラピストに求める新たな役割を「地域包括リハビリテーション」と名付けた。そして、地域で暮らす人々のリハ関連課題をライフステージごとに整理し、一つひとつの課題に対してセラピストができることの紹介を試みた。

第1章では地域包括リハに取り組むにあたって必要な基礎知識を分かりやすく概説した。第2章は本書の核であり、ライフステージごとの地域生活課題とそれへの取り組み方法を具体的かつ実践的に紹介するマニュアル部分である。実際の地域活動例をふんだんに織り交ぜているので、自分の活動の参考になる例をきつと見つけられることだろう。第3章はワークブックという形式になっている。これは、その記載通りに一步一步作業を進めていくことで、地域包括リハの活動の一つをそのまま実現できる、実施手順書のイメージである。実際にこれらの活動の経験がある執筆者たちにより、一般的な教科書には記載されていない実施上のコツが紹介されている点もこの章の特徴である。

さあ、セラピストの皆さん、本書を携えて地域に出よう。本書を1つの足掛かりとして、幅広くかつ柔軟に地域包括リハを展開し、地域の人々のさまざまな声に応えよう。地域はあなたを待っている。

2018年2月

河野 眞